

難治性血液疾患に対する最高水準の医療

白血病や悪性リンパ腫といった悪性腫瘍を中心に、再生不良性貧血や骨髄異形成症候群などの造血不全、HIV感染症などの診療を行っています。特に、白血病や悪性リンパ腫の治療に関しては、抗がん剤や放射線治療、移植療法を組み合わせ、新規の治療も積極的に取り入れています。

診療体制

外来は毎日、豊富な知識と経験を有する医師が血液内科領域全般を診察しています。入院では指導医と研修医が共同で主治医を務め、主に化学療法や造血幹細胞移植を行っています。個室19室を含む全43床に清潔な空気が供給されています。

対象疾患

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、慢性骨髄性白血病、骨髄増殖性疾患、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、巨赤芽球性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、キャッスルマン病、HIV感染症 他

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

白血病や悪性リンパ腫などの造血器悪性疾患の治療を中心に行っており、これまで多数の診療経験があります。同種造血幹細胞移植は年間30例以上実施、国内でもトップクラスの症例数を誇っています。血縁者間移植のみならず非血縁者間や臍帯血移植、ミニ移植にも対応しています。

高度医療の取り組み・研究

○難治性悪性黒色腫への細胞免疫療法

造血器腫瘍にとどまらない悪性腫瘍全般に対する新たな治療として、悪性黒色腫の患者さんに樹状細胞を投与し、がんを攻撃する免疫反応を活性化させる新しい細胞免疫療法の臨床試験を皮膚科と共同で行っています。



生活習慣病と内分泌代謝疾患に対する最先端医療

内分泌代謝疾患、生活習慣病(メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、高血圧、脂質異常症)と心臓、腎臓、血管合併症まで全身的診療を目標に研究室での新しい発見の治療への応用と、エビデンスに基づいた最先端医療を提供する指導的施設です。

診療体制

医療スタッフ約30名と、研究スタッフ約30名が連携。内分泌代謝、糖尿病、腎臓、循環器外来の専門外来を毎日7診担当しており、最先端の検査、治療を行うと共に、生活習慣改善のための糖尿病教室、運動療法教室など地道な診療活動にも力を入れています。

対象疾患

生活習慣病(メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、高血圧、脂質異常症、痛風)およびそれらに合併する慢性腎臓病、虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症など。内分泌代謝疾患(下垂体、甲状腺、副腎、骨粗鬆症と骨軟骨カルシウム疾患など)。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

外来患者数延べ約32,000人。入院患者数約15,000人。昨年度検査は甲状腺エコー640件、血管エコー116件、心エコー412件、腎エコー40件、心筋シンチグラフィ114件、甲状腺シンチグラフィ59件、心臓カテーテル検査37件、腎生検29件、甲状腺針細胞診167件、骨密度測定(DXA法)495件です。

高度医療の取り組み・研究

- ①難病創薬スーパー特区「難治性疾患を標的とした細胞間シグナル伝達制御による創薬」-新規ホルモン(レプチン、グレリン、CNP、アドレノメデュリンなど)のトランスレーショナルリサーチ(臨床応用)
心臓ホルモンANPとBNPの診断法と治療薬への臨床応用への実用化を達成し、その成功実績を踏まえて、脂肪萎縮性糖尿病(レプチン)、摂食異常症(グレリン)、軟骨無形成症(CNP)など稀少難病の最先端医療の研究をCommon Diseaseである生活習慣病とその合併症に展開する。
- ②革新的生活習慣病診療
生活習慣病(メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、高血圧、脂質異常症、痛風、骨軟骨疾患)の予防、診断、治療。最新の成果はデュアルインピーダンス法による内臓脂肪測定機器をオムロンヘルスケアと共同開発し2011年春より臨床応用を実現。
- ③生活習慣病に対する内分泌細胞、血管細胞の再生医療
ヒトiPS細胞、ES細胞を利用した内分泌細胞(膵β細胞、脂肪細胞、ステロイド産生細胞、骨軟骨細胞など)と血管構成細胞の再生医療。



デュアルインピーダンス法による内臓脂肪測定



慢性腎臓病の腎生検